

## プロフィール

所在地	徳島県阿南市	活動分野	スポーツ
団体名	徳島県グランドソフトボールクラブ	主な対象	視覚障害
活動名称	徳島県グランドソフトボールクラブ	団体の規模（団体の場合のみ）	所属 19 名
こんな活動です	目指せ！グランドソフトボール全国制覇！！		
連携している団体等	特別支援学校、徳島県視覚障害者連合会、徳島県障がい者スポーツ協会、全日本グランドソフトボール連盟、西日本グランドソフトボール協会		

## 活動の説明

①活動内容	<p>昭和 25 年 4 月、「盲人野球（現グランドソフトボール）をやりたい！」という強い気持ちで、徳島県立盲学校（現徳島視覚支援学校）の卒業生・理療科教員を中心に、設立されたクラブです。これまで全国身体障害者スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の地区予選を勝ち抜き、21 回出場しました。結果は、3 連覇を含む 9 度の優勝。この大会で 3 連覇しているのは、当クラブだけです。</p> <p>また全日本グランドソフトボール選手権大会では、5 連覇（平成 19 年～23 年）を果たしました。</p> <p>平成 28 年からは「徳島すだち杯グランドソフトボール大会」を主催し、地域のみなさんや他県のチーム関係者と交流・親睦を図っています。現在参加している大会は、下記の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国障害者スポーツ大会四国地区予選会</li> <li>・全日本グランドソフトボール選手権大会</li> <li>・西日本グランドソフトボール協会リーグ戦</li> <li>・広島折り鶴杯グランドソフトボール大会</li> <li>・徳島すだち杯グランドソフトボール大会 など。</li> </ul>
②活動体制	<p>監督・主将を中心に、大学生などのボランティアにも参加してもらっています。大学や高等学校、地域に呼びかけ、広くボランティアを募集しています。また徳島県障がい者スポーツ協会や徳島視覚支援学校と連携し、コーチを迎えています。</p>
③活動の効果等	<p>視覚障害者の親睦・交流にとどまらず、県内の大学や高等学校と連携することで、障害者理解の啓発・促進しています。また、徳島視覚支援学校や小学校のグラウンドで「徳島すだち杯グランドソフトボール大会」を実施することで、地域のみなさんと親睦・交流が深まり、相互理解が進んでいるとともに、視覚障害者の積極的な地域参加への意欲向上にもつながっています。</p>

## 活動の様子

	
試合前に行うエール交換の様子	試合中、徳島県のエースが投球している様子

## プロフィール

所在地	香川県高松市	活動分野	
団体名	特定非営利活動法人 香川県要約筆記サークルゆうあい	学習	
活動名称	要約筆記者派遣事業及び要約筆記者養成事業、 要約筆記の普及啓発事業	主な対象	
こんな活動です	健聴者・難聴者の心の架け橋にと「YOU&I」 「友・愛」という意味を込めて・・・「ゆうあい」に。 『話』を『文字』で伝えよう！要約して伝えよう！	聴覚障害者	
連携している 団体等	NPO 法人、行政（保健・福祉部局）	団体の規模（団体の場合のみ）	
		約 100 名	

## 活動の説明

①活動内容	<p>○ 要約筆記者派遣事業及び要約筆記者養成事業（県・市町の委託事業）</p> <p>県内各地で行われる聴覚障害者等が参加する各種行事等において、大会主催者等からの依頼を受け要約筆記者を派遣し、ノートテイクなどの要約筆記を実施し、聴覚障害者のコミュニケーションの支援や情報保障を行っている。また、毎年要約筆記者の養成講座を開講し、要約筆記の基礎知識・聴覚障害者の基礎知識など全14回（84時間）の研修を行っている。</p> <p>○ 要約筆記の普及啓発事業</p> <p>毎月例会を持ち、要約筆記の技術の向上を目指して練習会を開催するとともに、要約筆記の研究を行うなどにより、要約筆記者の育成やその資質の向上を図っている。また、毎月、広報誌を発行し、香川県要約筆記サークルゆうあいの活動内容や今後の予定などを広報するほか、毎週「難聴者との交流会」を開く。映画・落語・歌舞伎に字幕を付けるなど、要約筆記の普及活動も行っている。</p> <p>要約筆記の字幕付けの取組例</p> <p>【映画】「折り梅」（平成14年度）、「風の舞」（平成15年度）、「母のいる場所」（平成16年度）</p> <p>【歌舞伎など】 桂文珍字幕寄席（平成12年度）、四国こんぴら歌舞伎（平成15年度）</p>
②活動体制	依頼事業を受ける総合窓口、派遣部、養成講座部、事務局（総務・会計・広報）、監査の体制で運営。
③活動の効果等	<p>○これまでに養成した104名（平成28年度末現在）の要約筆記者の活動により、増加しつつある要約筆記派遣依頼にも対応でき、聴覚障害者の社会参加の促進の一助を担っている。</p> <p>○要約筆記者の資質向上を図ることが、聴覚障害者のよりよい意思疎通に繋がっている。</p> <p>○継続的な広報活動により、要約筆記についての認知度が増している。</p>

## 活動の様子



耳の日記念講演会



要約筆記者養成講座



## プロフィール

所在地	福岡県春日市	活動分野	スポーツ
団体名	福岡県障がい者スポーツ協会	主な対象	身体・知的・精神障害
活動名称	障がい者スポーツの普及・振興	団体の規模（団体の場合のみ）	事務局 6 名、 会員クラブ 23 団体
こんな活動です	エンジョイ・スポーツ！		
連携している団体等	福岡県、福岡県教育委員会、市町村、特別支援学校、各福祉関係団体、各スポーツ関係団体、各障がい者スポーツクラブ		

## 活動の説明

① 活動内容	<p>福岡県障がい者スポーツ協会は、主に「福岡県スポーツ推進計画（平成 26 年 3 月策定）」に基づく県事業の受託により活動しています。</p> <p>① 障がいのある人のスポーツ活動の発表機会を提供するため、毎年、身体障がい者体育大会、ときめき（知的障がい者）スポーツ大会等、各種障がい者スポーツ大会を開催しています。</p> <p>② 障がいのある人のスポーツ活動を支援するため、各種用具の貸出しや活動の場づくりとしてスポーツ・レクリエーション教室の企画・運営を行っています。また、障がいの有無に関わらず参加できるパラリンピック競技種目の体験イベントを実施しています。</p> <p>③ 障がい者スポーツを支える指導者の育成事業として、初級障がい者スポーツ指導員養成講習会やトップコーチ養成研修会を実施しています。</p> <p>④ 障がい者アスリート発掘・育成として、障がい者アスリートの強化測定会や研修会を実施しています。</p> <p>⑤ （公財）日本障がい者スポーツ協会の地域における障がい者スポーツ振興事業として、福岡県における障がい者スポーツ振興事業を実施（H23～27 年度）しました。</p>
② 活動体制	<p>福岡県障がい者スポーツ協会職員 6 名</p> <p>○内訳 事務局長（常務理事）1 名、障がい者スポーツ指導員 4 名（うち嘱託指導員 2 名）、事務員 1 名</p>
③ 活動の効果等	<p>① 障がいのある人に適したスポーツの普及</p> <p>② 障がいある人の心身の健康の維持、体力の増強、残存能力の向上</p> <p>③ 障がいある人の社会参加の促進と社会的更生</p>

## 活動の様子



車いすスポーツ教室の様子



パラスポーツ体験イベント（ブラインドサッカー）

## プロフィール

所在地	福岡県朝倉市	活動分野	学習
団体名	朝倉市手話の会 愛音の会	主な対象	聴覚障害
活動名称	情報保障（手話通訳・要約筆記）等	団体の規模（団体の場合のみ）	37名
こんな活動です	いつも笑顔で謙虚に厚かましく、継続は力なり！		
連携している団体等	社会福祉法人、行政（教育委員会、その他の部局）		

## 活動の説明

①活動内容	<p>聴覚障がいのある人への理解を深め、情報保障や社会保障の向上を図るために会員の情報保障技術（手話・要約筆記技術）向上に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>手話通訳、要約筆記活動（情報保障技術活動）</li> <li>情報保障技術向上のための学習や聴覚障がいのある人との研修や交流会。</li> <li>行政や社協からの依頼により各種講演会、情報教室等での情報保障活動。</li> <li>研修内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>笑いヨガ体験</li> <li>防災（気象庁ホームページ ワークショップ）等</li> </ul> </li> </ul>
②活動体制	<p>朝倉市聴覚障がい者福祉協会、朝倉市社会福祉協議会やボラ連の各登録団体と連携をとりながら市民の方が聴覚障がいのある人を理解し、誰もが住みやすい街づくりを実現できるように努めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>朝倉市社会福祉協議会の福祉ボランティア団体として登録。</li> <li>朝倉市ボランティア連絡協議会（ボラ連）に登録。</li> <li>朝倉市福祉事務所内に専任手話通訳者（手話の会から推薦）として1名設置。</li> <li>手話班（昼の部、夜の部）、要約筆記班に分かれ、聴覚障がいのある人の情報保障活動の実施。</li> <li>手話・要約筆記技術の向上に努めるため、定例会にて勉強会の実施。</li> </ul>
③活動の効果等	<p>研修（定例会）を毎週開催、また、講演会等での情報保障を行う事により、情報障がい者ともいわれる聴覚障がいのある人が、手話による学びができ、情報取得ができています。</p> <p>家庭・会社・地域で手話が通じ、聴覚障がいのある人が思う存分、手話で話すことが出来る場ともなっている。</p>

## 活動の様子



## プロフィール

所在地	佐賀県佐賀市
氏名	飯盛 清彦
活動名称	視覚障害のあるマラソンランナー（柳川春己氏）の伴走
こんな活動です	夢を追い、共に走る
連携している団体等	小学校、中学校、高等学校、公民館、PTA

活動分野
スポーツ
主な対象
視覚障害

## 活動の説明

①活動内容	<p>アトランタパラリンピックマラソン競技の金メダリストである柳川春己氏が練習を行う際のガイドランナーとして、23年間にわたり活動を継続している。</p> <p>アトランタパラリンピックの2年前である平成6年から取組を開始し、毎週2回ずつの練習を共に行ったことで、柳川氏の金メダル獲得に大きく貢献した。平成17年からは週1回の練習を行っており、平成29年11月時点で伴走回数は1,230回に上る。</p> <p>練習時以外にも、平成10年の佐賀空港開港マラソン、平成26・27年のさが桜マラソンでガイドランナーを務めている。</p> <p>さらに、競技外においても県内の小・中学校や高等学校、公民館で柳川氏と共に教育講演会を行ってきたことにより、障害者の活動支援の周知・普及啓発に努めた。</p>
②活動体制	柳川氏と協議・調整しながら、マンツーマンで週1～2回の伴走を行っている。
③活動の効果等	<p><u>○柳川氏の実績</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成8年 アトランタパラリンピックマラソン競技 金メダル受賞</li> <li>・平成12年 シドニーパラリンピックマラソン競技 6位入賞</li> </ul> <p><u>○県内における効果</u></p> <p>柳川氏と共に走る姿を新聞等で広く紹介されたことに加え、県内の小・中学校、高等学校、公民館等で柳川氏と共に「夢を持ち頑張り続けることの大切さ」「差別のない社会を目指して」等のテーマで教育講演会を行ってきたことにより、県内全域で障害者の活動支援についての周知及び普及の促進がなされた。</p>

## 活動の様子

	
さが桜マラソンでの伴走（平成26年）	小学校での教育講演会（平成28年）

## プロフィール

所在地	長崎県雲仙市	活動分野	文化
団体名	障がい者長崎打楽団 瑞宝太鼓 (社会福祉法人南高愛隣会)	主な対象	知的障がい
活動名称	障がい者・夢大使活動、チャレンジ・ドンたいこ講習 粋活き太鼓教室等	団体の規模 (団体の場合のみ)	団員 16 名
こんな活動です	①障がい者・夢大使活動 ②チャレンジ・ドンたいこ講習 ③粋活き太鼓教室 ④太鼓フィットネス ⑤瑞宝会クラブ活動		
連携している 団体等	保育所、小学校、中学校、特別支援学校、公民館、文化芸術活動 を行う団体、社会福祉法人、行政 (教育委員会、保健・福祉部局)		

## 活動の説明

①活動内容	<p>①小中学校、特別支援学校、施設等への講話、演奏、ワークショップ。                  ②障がい児・未就学児を対象とした講習。和太鼓を用いたリズム遊びや音のかけ合い、身体を動かすプログラム等を取り入れ、子どもの基礎体力と感性を伸ばす。                  ③高齢者を対象としたリハビリ太鼓講習。認知症予防など心と身体の健康を促進する。                  ④障がい者対象の講習。音楽とダンスと太鼓をミックスしたフィットネスで、健康づくりやストレス発散で楽しい時間を過ごす。                  ⑤余暇活動としての趣味と交流を支援する会員制クラブ活動。                  ・工夫している点…とにかく楽しく！わかりやすく！寄り添って！をモットーに取り組みます。</p>
②活動体制	<p>行政 (国、県、市) の教育委員会や生涯学習課、障害福祉課などとの連携を始め、教育関係では現場職員との関わりが広がって新たな出会いが生まれ、地域では瑞宝太鼓サポーター等の協力を得ながら地元企業や福祉施設、病院関係、高齢者施設との新規交流が始まっている。また、そのつながりの中から音楽関係者とも出会い、良き指導、新たな目標も頂いている。</p>
③活動の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者の啓発啓蒙 障がい者・夢大使活動、瑞宝太鼓公演等を通じ、あらゆる世代の方に「あきらめなければできないことはいないということを学んだ」、「価値観が大きく変わった」等の感想を頂いた。</li> <li>・障がい者へのキャリア教育 特別支援学校高等部等では、メンバーの人生や夢、実際の演奏を披露することによって、未来への夢や希望を与えている。</li> <li>・障がい者・保護者の希望 公演などを通して「ぜひ我が子も」と希望され、実際に入団 (雇用) に繋がったケースも多い。障がい児の保護者には特技や特性を活かした将来像を描き、希望を与えている。</li> <li>・障がい者の余暇活動の充実 クラブ参加者は活動を楽しみにしており、それが仕事の意欲となり生きる力につながっている。また、発表する機会があることで地域とつながりも生まれる。</li> <li>・障がいの枠を超えた交流・共感 全国各地にも実行委員会や応援団等多くの瑞宝太鼓サポーターができ、瑞宝太鼓メンバーを囲んで交流の輪と絆が広がり、インクルージョンな場面が広がりつつある</li> <li>・太鼓を通じた心身のリハビリ効果 子どもには集中力アップ、高齢者に関しては身体機能の効果が表れた。</li> </ul>

## 活動の様子



## プロフィール

所在地	大分県大分市	活動分野
団体名	学校法人後藤学園 楊志館高等学校 ボランティア部	学習
活動名称	楊志館高等学校ボランティア部	主な対象
こんな活動です	障害のある人との交流	聴覚障害
連携している団体等	特別支援学校、社会福祉法人、行政（保健・福祉部局）	団体の規模（団体の場合のみ）
		部員数 15 名

## 活動の説明

①活動内容	<p><b>【活動内容】</b></p> <p>①大分県障がい者スポーツ大会で卓球大会の運営補助（30年継続）          ②手話スピーチコンテストで大分県聾学校と交流（25年継続）、点字本の寄贈          ③大分国際車いすマラソン大会でトイレ案内係、車いす乗換案内係、選手荷物案内係、弁当配布係の運営補助（30年継続）          ④心身障がい者（児）秋の交歓会でのボランティア（20年継続）          ⑤身体障害者施設で文化祭のボランティア（10年以上）          ⑥全国高校生の手話によるスピーチコンテストへの応募と出場（20回）（30年継続）</p>
②活動体制	<p><b>【活動体制】</b> 顧問1名、部員15名</p>
③活動の効果等	<p><b>【活動の効果】</b>          「仕事を最後までやりきる責任感」「障害の有無に関わらず積極的に社会参加することの大切さ」「障害者に対する差別意識や先入観が悪いことの気づき」「自己中心的なことが薄れ、他人へ配慮ができる」等参加した生徒が実感できる。</p> <p><b>【地域全体への普及状況】</b>          「ボランティアの楊志館高等学校」と誰もが認める存在となっている。地域の高齢者との交流も行われており、お互いが地域の活性化を図る努力をし、地域に密着した活動を続けている。</p>

## 活動の様子



大分県障がい者スポーツ大会ボランティア



大分県立聾学校との交流会

## プロフィール

所在地	大分県大分市
氏名	河津 知子
活動名称	かわづ寺子屋『ふくろう』
こんな活動です	笑顔いっぱい、元気いっぱい 一人ひとりが「ありのまま」でいられる環境で活動
連携している 団体等	特別支援学校、聴覚障害センター

活動分野
学習
主な対象
聴覚障害児

## 活動の説明

①活動内容	<p>【活動のねらい】 『一人ひとりの個性を尊重し、楽しく遊べる環境をつくる』</p> <p>【活動内容】 絵本読み聞かせ ゲーム・スポーツ交流 場所：大分県立聾学校 体育館</p> <p>「絵本読み聞かせ」「スポーツ交流」「ピクニック」など季節に合わせた活動を企画し、楽しく手話で話しながら一日活動する。 「絵本読み聞かせ」はろう者の言語である『日本手話』で語り、子どもたちと一緒に絵本の世界を楽しむ。「スポーツ交流」ではスポーツの秋に、『ぶんごヤングラガーズ（大分県内の中学生によるラグビースクール）』と恒例のタグラグビーの交流をする。</p>
②活動体制	代表、スタッフ、会計 会員：聴覚障害児、保護者、兄弟（聴者）
③活動の効果等	<p>【活動の効果】 手話を中心としたコミュニケーションをとることで、子どもたちの一人ひとりが「ありのまま」でいられる。また、聞こえる親や兄弟が手話を習得し、ろう児とのやりとりには手話が大切であることへの理解が深まる。</p> <p>【地域全体への普及状況】 聾学校の通級担当者が、地域の学校に通っている難聴児に紹介したり、異動した教職員や退職した教職員に協力していただき、一緒に活動したりしている。</p>

## 活動の様子



手話による絵本読み聞かせ



ぶんごヤングラガーズとの交流

## プロフィール

所在地	宮崎県串間市	活動分野	学習
団体名	串間市音声訳ボランティア「カナリヤ会」	主な対象	視覚障害者
活動名称	視覚障害者への朗読活動	団体の規模（団体の場合のみ）	会員 12 名
こんな活動です	市報を声で伝え！26年で300回超を達成！		
連携している団体等	小学校、公民館、図書館、病院・保健所、行政（教育委員会、保健・福祉部局）		

## 活動の説明

① 活動内容	<p>「カナリヤ会」では、毎月、視覚障害者向けに市の広報紙を読み上げて録音するカセットテープ「声のお便り」を届ける活動を行っています。</p> <p>現在、市内の利用者10名に直接配送するほか、市立図書館や福祉施設など12か所に届けています。</p> <p>平成3年（1991年）7月の第1号の発行から平成29年7月で26年が経過し、「声のお便り」として312回を達成し、今後の活動に意欲を見せています。</p> <p>また、朗読ボランティアのメンバーは、「やわらかい話を楽しみにしている視覚障害者の方々も多い」ことから、広報の内容だけでなく季節の話題や新聞記事も一緒にテープに収める工夫をしています。</p> <p>これからも長く活動を続けたいと、ボランティアメンバーの募集も行っています。</p>
② 活動体制	<p>活動は、月3回、録音を行うため市保健福祉センターにメンバーが集まって収録を行っています。活動のための経費は、市社会福祉協議会の助成金（3万円）により運営しています。</p>
③ 活動の効果等	<p>目の不自由な方に大切な情報をしっかりと伝えることをとおして、視覚障害者の方々が過ごしやすい環境づくりにつながっています。また、メンバーは各種研修に積極的に参加し、今後さらに音声訳の技術向上を目指す意欲が高まっています。</p>

## 活動の様子

	
読み合わせの様子	録音テープへの収録の様子

## プロフィール

所在地	島根県松江市	活動分野	学習
団体名	島根大学 知的に障がいのある人のオープンカレッジ in 松江実行委員会	主な対象	知的障害者
活動名称	知的に障がいのある人のオープンカレッジ in 松江	団体の規模（団体の場合のみ）	学生スタッフ 13 名 社会人スタッフ 6 名 (2017 年 12 月現在)
こんな活動です	知的障がいのある人の教育の機会や発達の可能性を保障する取り組みです。		
連携している団体等	行政（教育委員会）、松江市社会福祉協議会、松江市手をつなぐ育成会		

## 活動の説明

①活動内容	<p>2008 年 10 月から 2 年を 1 期とした「知的に障がいのある人のオープンカレッジ in 松江」を島根大学松江キャンパスにて開催している。毎年開催時期は 10 月と 3 月であり、それぞれ 2 日間ずつ開講している。オープンカレッジの受講生の条件は、18 歳以上の知的に障がいのある人であり、かつ島根大学の正門まで公共交通機関等を利用して来ることのできる人（家族や支援者の協力は問わない）である。</p> <p>オープンカレッジは、全体講義と選択講義を組み合わせしており、1 日目は午前が全体講義、午後は選択講義、2 日目の午前は全体講義、午後は交流会という流れを基本としている。また毎年 3 月には工場見学や博物館見学などの課外学習に出かける。講義は座学と演習を用意しており、選択講義は受講生自らが選択して受講することができる。講義や交流会等を通じて、受講生同士、受講生と学習サポーター、受講生と学生・社会人両スタッフ等がつながりを持てるように心がけている。講義の内容や課外学習の訪問先の選定の際は、毎回オープンカレッジの際に実施する受講生アンケートに記載されている希望を参考にしている。</p>
②活動体制	<p>実行委員会は、島根大学福祉社会コース学生らによる学生スタッフと、松江市社会福祉協議会、松江市手をつなぐ育成会の社会人スタッフにより構成されている。全体の企画は学生スタッフが中心となり、受講生募集、学習サポーター募集、講師探し、講義内容の調整まで幅広く取り組んでいる。実行委員会では、社会人スタッフから学生スタッフの活動に対する助言等がある一方で、講師探しや学習サポーター募集等の協力を依頼する場になっている。当日の運営は実行委員会のメンバー全員で行っている。</p>
③活動の効果等	<p>就学猶予・就学免除により義務教育の機会が制限されていた受講生や、卒業後に学ぶ機会がほとんど無かった受講生にとって、実現が難しかった「学ぶ」ことに対するニーズの充足につながっている。活動を通じて、受講生同士、受講生と学習サポーター、受講生と学生スタッフ等の人と人とのつながりができるため、受講生が地域生活を送る上でのネットワークに広がりが出てきている。学生スタッフや講師、学習サポーターらにとっては、障害理解を深める機会になっている。</p>

## 活動の様子

	
参加者全員での集合写真	全体講義の様子

## プロフィール

所在地	鹿児島県指宿市	活動分野	スポーツ
団体名	特定非営利活動法人いぶすきスポーツクラブ	主な対象	視覚障害
活動名称	サウンドテーブルテニス	団体の規模（団体の場合のみ）	事務局員数 23 名、会員数 340 名
こんな活動です	耳を澄ましてボールに集中！		
連携している団体等	公民館、行政（教育委員会、保健・福祉部局）		

## 活動の説明

①活動内容	<p>週に2回、1回3時間程度、サウンドテーブルテニスを実施しています。サウンドテーブルテニスはその名のとおり、音で判断しプレイします。会場はなるべく周りの音が聞こえにくい施設を確保し、雑音がプレイの妨げにならないよう注意しています。</p> <p>活動のきっかけは、総合型地域スポーツクラブ設立の際、理念として掲げた「いつでも・どこでも・だれでも・だれとでも」を目指し、障害者にも楽しんでもらえるサークルを開設する為、障害者団体と話し合い、サウンドテーブルテニスサークルを開設しました。指宿市社会参加促進事業と提携し、会員を募ったところ、すぐに会員が集まり活発な活動が始まりました。</p> <p>現在も、県内大会はもちろんのこと、県内大会で優勝し、県外で行われる九州大会に出場する参加者もいます。また大会参加の段取りは参加者自身が行い、職員やヘルパーは相談役や頼まれたことを手配する等のフォローに徹し、自主性を尊重しています。</p>
②活動体制	<p>当団体の職員は活動場所の確保と卓球台準備等の会場設営を行い、社会福祉協議会のヘルパーが活動時の補助を行なっています。参加人数が多いときなどは、職員も補助に入り、参加者が時間を有効に活用できるような体制づくりに努めています。</p>
③活動の効果等	<p>年代、性別に関係なく誰でも参加できるスポーツとして、幅広い年代の方々が集い、世代間を越えた交流の場となっています。また、大会等へ参加することで他団体との交流も増え、コミュニケーションの場がさらに広がってきました。汗をかくことで、健康面の効果も上がっています。また、家に引きこもりがちだった方々が、積極的に外出するきっかけにもなっています。</p>

## 活動の様子

	
ボールの音に耳を澄ませます	手前に座っているヘルパーが補助をしています

## プロフィール

所在地	沖縄県那覇市	活動分野	スポーツ
団体名	NPO 法人 日本バリアフリーダイビング協会	主な対象	視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、内部障害
活動名称	バリアフリーダイビング	団体の規模（団体の場合のみ）	職員 4 名、会員 200 名（指導員を含む）
こんな活動です	障害者の生涯スポーツ支援として、バリアフリーダイビング体験や大会運営、指導者養成等を実施。		
連携している団体等	社会教育関係団体、スポーツ団体、大学、専門学校		

## 活動の説明

①活動内容	<p>「バリアフリーダイビング（体験ダイビング、大会、指導者養成等を通して）」</p> <p>活動内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①安全なプログラムの実施…ハンデを持っている個々の能力に合わせ、安全で楽しいダイビングができるようプログラムの構築をしている。</li> <li>②サポートダイバーの育成…障害者をバディとして支援するサポートダイバーを育成（約 120 名）</li> <li>③指導員の育成…全国でも少ない専門的な知識・技能を有した指導員を育成（約 60 名）</li> <li>④ハンディキャップ所持者指導員の育成…バリアフリーダイビング指導者として活躍できる場を作る（現在 1 名）</li> <li>⑤全国大会の実施…平成 10 年から全国大会を実施。（これまで 3,500 名あまりが交流した）平成 12 年からは地方大会も実施、運営にあたっている。</li> <li>⑥海外ツアーの実施…あるレベルに達した障害者の皆さんに平成 13 年からは海外ツアーを提供。（バリ島、サイパン、モルディブなどの海で約 200 名）</li> </ul>
②活動体制	<p>障害の種類は多種多様であり、場合によっては併発する場合もあり、海のスポーツにとっては危険な障害もある。このような中、多くの障害者が安全・安心にバリアフリーダイビングを体験していただくには、万全な活動体制が不可欠である。そこで、当組織においては専門委員会や実施本部をおき、関係機関との連携を密に行うとともに、活動地域に顧問ドクター、バリアフリーダイビング指導員を配置し万全を期して活動を実施している。</p>
③活動の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>①障害者の生涯スポーツの支援</li> <li>②障害者のノーマライゼーション社会の実現</li> <li>③青少年の健全育成、福祉の増進、海環境の保全、地域の活性化等 に寄与している。</li> </ul>

## 活動の様子

	
海外ツアー in フィリピン（2015 年）	サポートダイバーとともに（第 9 回全国大会の様子）

## プロフィール

所在地	沖縄県うるま市	活動分野	文化
団体名	特定非営利活動法人サポートセンターケントミ	主な対象	知的障害、様々な障害
活動名称	ケントミファミリーによる訪問ライブ活動等	団体の規模（団体の場合のみ）	会員数 10 名（役員）、 ケントミファミリー 14 名
こんな活動です	障がい者と健常者とが共になり、音楽を通じた訪問ライブや音楽祭などの交流を行っている。		
連携している団体等	幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、公民館、図書館、PTA、スポーツ団体、NPO 法人、文化芸術活動を行う団体、社会福祉法人、企業・事業所、病院・保健所、行政（沖縄市教育委員会・文化芸能課・障がい福祉課、沖縄県 障害福祉課）		

## 活動の説明

①活動内容	<p>1. 「ケントミファミリーによる訪問ライブ活動」 障がい者と健常者とで結成したケントミファミリーというバンドで毎週土曜日を基本として介護施設、障がい者支援施設、公民館等を訪問し沖縄の音楽を中心としたライブ活動とその練習を行っている。（前年度ライブ実績 52 回、個人活動 40 回、音楽指導・練習 35 回） 人前に出て歌を歌い演奏することで、今まで人前に出ることが出来なかった障害のある人や引きこもっていた人たちが、自分たちでもできるという自信が付き前向きな気持ちになることで、社会に出ていくことができるようになっていく。また、近隣地域だけでなく、宮古島市などの離島や東京、埼玉、北海道、仙台、神戸、ハワイ、カンボジアなど多くの地域に訪問しており、訪問ライブで飛行機などの移動手段を積極的に使い沖縄から出ること、さらに前向きな気持ちを醸成している。</p> <p>2. 「愛音楽（アネラ）音楽祭の運営と演奏（毎年 2 回実施）」 障がい者主体の音楽祭。ケントミファミリーを中心に会場設営、運営、演奏すべてに障がい者が携わり開催している。 ケントミファミリーの活動に賛同し、練習を始めている様々な障がいを持った人たちが沖縄県全島から集まり、多い時で 500 人近くの観客を前に演奏したり、歌を披露したりすることもあつた。音楽祭を通じて、CD をリリースするなど本格的な活動を行っているグループもある。</p>
②活動体制	10 名の役員とケントミファミリー（14 名）を中心に訪問ライブを実施している。音楽祭（アネラ音楽祭）においては、活動の趣旨に賛同した方々が運営や演奏に参加している。
③活動の効果等	年間 140 回もの発表の場の提供を受けて演奏しており、障がい者が主体となる音楽祭を通じて、多くの障がい者の社会参加に貢献している。

## 活動の様子



シニアセンター訪問（ハワイ/沖縄県人会）2016. 12 月



県障がい者スポーツ大会優勝祝勝会 2016. 11 月

## プロフィール

所在地	北海道札幌市	活動分野	学習
団体名	札幌市特別支援教育研究連絡協議会	主な対象	知的障害、その他の障害
活動名称	レインボーピック、レインボーフェスティバル、札特連バスケットボールチーム等	団体の規模（団体の場合のみ）	会員数 1,635 名（平成 29 年度）
こんな活動です	みんな なかよく たくましく！		
連携している団体等	小学校、中学校、特別支援学校、NPO 法人、行政（教育委員会）、一般社団法人		

## 活動の説明

①活動内容	<p>【レインボーピック】</p> <p>特別支援学級に通う児童生徒の活動の成果を発表する場として、市内特別支援学級の合同体育大会を開催しています。昭和 38 年度より開催しており、今年度は 55 回目の大会を実施しました。</p> <p>【レインボーフェスティバル】</p> <p>児童生徒の発表の場づくり、及び特別支援教育の現状や地域社会の中で生活する障がいのある児童生徒への正しい理解を図ることを目的に、児童生徒の絵画や工作、習字などの展示や製作した物品の即売も行っています。昭和 30 年度より開催しており、今年度は 61 回目の開催を 2 月に予定しています。</p> <p>【札特連バスケットボールチーム】</p> <p>中学校・特別支援学校高等部の生徒から社会人でチームを結成し、現在、約 100 名が所属し活動しています。平成 8 年に全国障害者スポーツ大会「ゆうあいピック」が札幌市で開催されたときに、市内の中学校特別支援学級の生徒が中心となって、チームが結成されました。チームには、シドニーパラリンピックに出場した選手や世界大会に出場し海外遠征をした選手、全日本の候補になった選手もいます。</p>
②活動体制	<p>本協議会は市立特別支援学校、市立小中学校特別支援学級、通級指導教室を担当している教員及び、設置校の校長等を会員として構成しています。各行事等については、実行委員会を組織して運営していますが、その取組を通じて、担当者間の交流や互いの研鑽の場としても機能しています。</p>
③活動の効果等	<p>本協議会の活動を通じて、児童生徒や会員相互の交流が図られるとともに、障がいのある方の余暇の充実にもつながっています。また、行事等の運営などを通じて、特別支援教育担当者の指導力の向上にも役立っているほか、広く市民等にも活動を周知することにより、障がいのある児童生徒に対する理解啓発を図っており、障がい者の生涯学習や社会参加への支援につながっています。</p>

## 活動の様子



レインボーピック



札特連バスケットボールチーム

## プロフィール

所在地	宮城県仙台市	活動分野	学習
団体名	障害児（者）を守る日実行委員会	主な対象	肢体不自由，視覚障害，聴覚障害，知的障害，その他の障害
活動名称	みんな仲よし音楽交流会、子どもと市民のつどい運動会、私たちの作品展	団体の規模（団体の場合のみ）	委員数 16 名
こんな活動です	「子どもたちに元気と笑顔を！」		
連携している団体等	小学校、中学校、特別支援学校、社会福祉法人、行政（教育委員会）、放送局、新聞社		

## 活動の説明

①活動内容	<p>仙台市立小・中学校の特別支援学級，特別支援学校の児童生徒を対象に，生き生きと楽しく交流できる場，力や活動を表現できる場として，次の3事業を開催している。</p> <p>「みんな仲よし音楽交流会」（平成28年度737人参加）は，音楽を聴いたり，一緒に歌ったり身体表現することを通して楽しく音楽に触れる機会となっている。子どもたちに様々な体験をさせるため，幅広いジャンルから企画・検討を重ねて出演者の交渉等を行っている。</p> <p>「子どもと市民のつどい運動会」（平成28年度432人参加）では，参加する子どもたちが市民ボランティアや他校の子どもと交流をしながら全種目に参加し，仲間と協力しながら楽しく競技を行っている。</p> <p>「私たちの作品展」（平成28年度173校から2,020点出品，一般市民等4,054人来場）には，多数の児童生徒の作品を展示しており，多くの参加校では校外学習として他校の作品を鑑賞する機会を設定している。また，テレビ局や新聞社等への働きかけ，地域情報紙への掲載，パンフレットやポスターの配布等広報活動にも努めており，一般の見学者も多数見られる。</p>
②活動体制	<p>平成29年度は16名の委員がすべてボランティアで運営している。また，在仙の大学生や，小学校区ごとに開設されている社会学級の学級生等に対しボランティア募集の声かけを行い，平成28年度は，「みんな仲よし音楽交流会」7名，「子どもと市民のつどい運動会」22名，「私たちの作品展」42名の方々に当日のスタッフとしてご協力いただいた。</p>
③活動の効果等	<p>障害のある児童生徒にとっては，他校との交流を通して活動の幅が広がるだけでなく，将来にわたり音楽やスポーツ，芸術に親しみ，自ら楽しもうとする意欲の喚起につながっており，学校の教員にとっても情報交換や指導力向上に結びつく交流の場となっている。「私たちの作品展」では，来場者と校外学習の子どもたちが交流・親睦を図る様子も見られ，障害のある子どもや特別支援教育に対する市民の理解を深める啓発的な役割も担っており，毎年楽しみに来場する方も多く，年度を追うごとに増加する来場者数が関心の高さを示している。</p>

## 活動の様子



「みんな仲よし音楽交流会」



「私たちの作品展」

## プロフィール

所在地	神奈川県相模原市
氏名	中澤 吉裕
活動名称	車いすテニスサークル「Smile」
こんな活動です	車いすテニスを通じて、「笑顔」で自分自身を表現しよう！
連携している団体等	スポーツ団体、企業・事業所

活動分野
スポーツ
主な対象
肢体不自由

## 活動の説明

①活動内容	<p>初心者や車いすテニスに興味のある障害者を対象として、月に1回のペースで車いすテニス体験会（講習会）を行っているほか、納涼祭や餅つき大会などのイベントを開催しており、毎回7～8人の障害者が参加している。</p>
②活動体制	<p>候補者が中心となって、障害者の保護者やボランティアと協力し、車いすテニスサークルを運営している。ボランティアについて相模原市テニス協会から、テニスコートの提供について相模原市内の民間企業と連携している。</p>
③活動の効果等	<p>障害者に体を動かす場や仲間づくりの場を提供しているとともに、サークル活動に参加した障害者が、車いすを自分でプッシュすることができるようになったり、養護学校へ一人で通学することができるようになるなど、障害者の自立支援にも繋がっている。</p>

## 活動の様子



コーチの指導に耳を傾ける参加者たち



練習の様子

## プロフィール

所在地	静岡県静岡市	活動分野	学習
団体名	「静岡市あおい講座」運営委員会	主な対象	知的障害
活動名称	静岡市あおい講座	団体の規模（団体の場合のみ）	事務局・運営委員数 14 名、講師数 12 名（一部運営委員兼） 受講者数 58 名（平成 29 年度）
こんな活動です	よく働き、よく学び、よく遊ぶ		
連携している団体等	特別支援学校、生涯学習センター、文化芸術活動を行う団体、社会福祉法人、企業・事業所、行政（静岡市教育委員会、静岡市市民局生涯学習推進課）、静岡手をつなぐ育成会、静岡市特別支援教育進路指導協議会、静岡大学		

## 活動の説明

①活動内容	<p>知的障害がある人たちの学校卒業後における生涯学習の一環として実施する講座の企画・運営に当たるとともに、講師として講座の担当と受講者の学習活動支援を行う。</p> <p>本講座は、50 年前に市内中学校特殊学級（現特別支援学級）の卒業生と保護者の願いに応えてスタートした。その後青年学級（青年学級振興法による認可）を経て、現在に至る。</p> <p>活動日は毎月 2 回を基本に、1 日 6 時間、年間 25 日、延べ 150 時間程度の学習活動を実施する。内容は、仕事とくらし方やスマホ・ケイタイ安全教室など知識・教養、室内スポーツなど運動・レクリエーション、クラフト教室など趣味的活動、調理実習と献立・食事マナー、見学・旅行等と多様である。受講者の年齢層は 20 歳代から 60 歳代、就労形態も企業から自立支援等事業所と幅広い。一斉学習のほかに、年代別のグループ編成や自主的なクラブ活動を取り入れるなどして、受講者の主体性の向上と学習活動の充実を目指している。</p>
②活動体制	<p>受講者、講師、保護者、学生ボランティアの各代表及び生涯学習センター担当で運営委員会を組織する。委員会に代表、庶務、会計を置き事務を行う。4 半期ごとに開催する運営委員会のもと、毎月の具体的な学習計画を立案し講座の運営に当たる。各講座は学習内容や活動に応じてそれぞれの講師が担当する。内容によってその分野の関係機関等に依頼する。また、大学との連携のもと毎回数名の学生ボランティアが受講者の学習活動を支援する。</p>
③活動の効果等	<p>受講者のおよそ 2 割が年間を通じ皆出席、欠席日数 3 日以内は 7 割ほどである。継続して参加することで、学習活動への見通しや要望・意見をもつなど積極的、自主的な取り組みが見受けられる。仲間づくりや余暇活動の広がりと同時に、日常生活や就労面での安定化にも寄与している。また、地域の関係者に講師を依頼したり他グループとの交流活動を行ったり学習活動展を開催したりして地域社会の理解促進に努めている。</p>

## 活動の様子

	
一斉学習での受講風景	グループごとの調理学習

## プロフィール

所在地	静岡県浜松市	活動分野	スポーツ
団体名	浜松ポッチャ倶楽部 COOL	主な対象	肢体不自由
活動名称	浜松ポッチャ大会の開催等	団体の規模（団体の場合のみ）	36名（うち、障がい者21名、家族親戚6名）
こんな活動です	ポッチャで楽しく自己実現！！		
連携している団体等	小学校、中学校、特別支援学校、公民館、スポーツ団体		

## 活動の説明

① 活動内容	<p>2003年に初代会長、故鈴木三枝子が静岡ポッチャ協会主催の講習会で出会った「ポッチャ」の魅力に惹かれて倶楽部を設立。翌年から多くの障がい者に自己実現を場を提供するために「浜松ポッチャ大会」を開催し、現在まで14回続けている。審判員の技術など運営面にも妥協せず、単独倶楽部が主催する大会としては全国にも例を見ない規模の大会を運営し、その大会レベルが評価され全国各地から選手が集まり、毎年ハイレベルな熱戦を繰り広げている。第12回より「ふれあいポッチャ大会」を同時開催し選手と来場者との交流を図る。</p> <p>2016年からは、倶楽部を応援して下さる企業との出会いから、2つ目の大会「ふじのくにポッチャ選手権大会」もスタートさせ、より高い試合運営を目指し、複数回の審判講習を行うなど、スタッフ育成にも一層力を注いでいる。</p> <p>統廃合により地域に譲渡された旧小学校の体育館などを拠点に、地域の方々との交流を広げるための体験会「ねえねえ、ポッチャやろうよ！」も開催し、競技や障がいへの理解向上にも努めている。</p>
② 活動体制	<p>市内の学校や公民館、スポーツ団体などからの要望に応え、福祉体験の場やスポーツ交流の機会を設け、積極的に関わりを広げるとともに、競技の周知や一緒に活動する会員の獲得にも努めている。</p> <p>中・高・大学などのボランティア団体へ働きかけ、継続的なサポート提供を受けられる体制づくりにも努めている。</p> <p>月2回をめぐりに定期的な練習会を続けることで、いつでも誰でも参加しやすい環境作りも進めている。</p>
③ 活動の効果等	<p>創設15年を迎え、地道な地域との交流活動が実を結んだことと2020年の東京パラリンピック招致も相まって、近年より多くの施設、団体から交流の声がかかるようになって来るとともに、関わってくれる学生や社会人も増えている。</p> <p>今後も更に充実した大会運営や交流活動を続け、より多くの方々に継続的に倶楽部に関わっていただける体制づくりを進めて行きたい。</p>

## 活動の様子



浜松ポッチャ大会での真剣勝負！！



ふれあいポッチャ大会で「出世大家康くん」と交流

## プロフィール

所在地	京都府京都市	活動分野	学習
団体名	一般社団法人 京都手をつなぐ育成会	主な対象	知的障害
活動名称	青年学級（日曜教室，学習会，クラブ活動）	団体の規模（団体の場合のみ）	会員 611 名
こんな活動です	仲間で寄り合い，学び合う		
連携している団体等	小学校，中学校，高等学校，特別支援学校，公民館，社会教育関係団体，NPO 法人，社会福祉法人，企業・事業所，行政（教育委員会，保健・福祉部局）		

## 活動の説明

① 活動内容	<p>昭和 38 年に読み書きの基本を学ぶ場として「夜の学習会」を開始以降，学校を卒業し社会人になってからも，仲間で寄り合い学びあう場所が欲しいとの要望が高まり，昭和 45 年，多くの先生方のご支援を受け，クラブ活動や社会体験等を組み入れた余暇支援学習活動「日曜青年学級」としての取組を開始しました。以来「日曜青年学級」は，原則第 1・3 日曜日に開催し，平成 25 年には 1000 回を数えるなど，継続的に障害のある人の生涯学習活動をしています。学習の対象は音楽，ものづくり，書道，茶道，野外活動，英語，パソコンなど多岐にわたっており，障害のある人の自立と社会参加に大きく寄与しています。</p>
② 活動体制	<p>一般社団法人 京都手をつなぐ育成会は，知的障害者が心身共に健やかに活動し，社会・経済・文化・芸術等の様々な分野の活動に参加する機会が与えられるとともに，その環境，年齢及び心身の状況に応じた必要な福祉サービスが，地域において総合的に提供されることを目的として活動してまいりました。</p> <p>青年学級部会，相談部会，研修部会の他，京都市内全ての行政区に支部を設け，「ふれあいの絆」の理念の下，地域での支援活動も展開しています。</p>
③ 活動の効果等	<p>青年学級の取り組みは，障害のある人の自立と社会参加に大きく寄与してまいりました。50 年にわたり継続的な取組ができたのは，多くの支援者はもとより，地域の皆様のご理解とご協力の賜物であり，深く感謝しております。今後とも当会の本人活動の中核的な取組として，1500 回，2000 回を目指して継続して取り組んでまいります。</p>

## 活動の様子



コーラスの練習風景です。



春の遠足でカレー作りに挑戦しました。

## プロフィール

所在地	東京都中央区	活動分野	スポーツ
団体名	大同生命保険株式会社	主な対象	肢体不自由、視覚障害、聴覚障害、知的障害、その他の障害
活動名称	全国障害者スポーツ大会特別協賛企業	団体の規模（団体の場合のみ）	職員 6,959 名
こんな活動です	四半世紀にわたり、大会に特別協賛するとともに、役職員がボランティアとして参加し、大会の盛上げに協力。		
連携している団体等	大同生命が所属する T&D 保険グループ各社および同社の関係団体である法人会、納税協会		

## 活動の説明

① 活動内容	<p>大同生命は、創業90周年(平成4年)を機に、障がい者スポーツの普及・発展に貢献するため、全国障害者スポーツ大会(※)の前身である全国知的障害者スポーツ大会(ゆうあいピック)の第1回東京大会から、四半世紀にわたり毎年継続して大会への特別協賛を行っている。</p> <p>また、大会の盛上げに協力するため、開催地の役職員をはじめグループ各社や関係団体の役職者等が、大会式典への参加や競技観戦を通じて選手を応援するとともに、メイン会場に設置する特設ブースの運営ボランティアとして大会に参加。特設ブースでは、全国から集まった選手や応援に来られた方々とゲームやイベントを通じて交流できる「ふれあいの場」を提供している。</p> <p>なお、特別協賛を開始した平成4年以来、本年10月に開催した第17回全国障害者スポーツ大会(愛顔つなぐえひめ大会)までの協賛金の累計金額は22億円、大会への参加者数はのべ1万人超となっている。</p> <p>※全国障害者スポーツ大会とは 障がいのある選手が競技等を通じ、スポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障がいに対する理解を深め、障がい者の社会参加の推進に寄与することを目的とした国内最大の障がい者スポーツの祭典で、毎年、国民体育大会とともに開催されている。</p>
② 活動体制	<p>大同生命では、特別協賛を開始した平成4年に役職員による自主的な企業市民活動組織として「大同生命社会貢献の会」を設立し、募金・寄付活動のほか、活動交通費の補助など役職員のボランティア活動の参加を支援している。</p> <p>また、会社も役職員の活動を支援するため、ボランティア休暇制度を整備している。</p>
③ 活動の効果等	<p>障がいのある方との交流を通じて、大同生命の役職員自身が元気や勇気を貰うとともに、障がいや障がい者スポーツに対する理解を深め、ボランティア意識の醸成に繋がっている。</p> <p>この全国障害者スポーツ大会への支援に加え、大同生命は、日本障がい者スポーツ協会のオフィシャルパートナーとして当協会が主催するジャパンパラ競技大会などへのサポートや、障がい者アスリートの雇用など、障がい者スポーツのさらなる普及・発展にむけた取組みも行っている。</p>

## 活動の様子



全国から集まった選手や応援の方々と賑わう大同生命ブース



ゲームを通じてふれあう選手と大同生命のボランティア